

FUREAI NEWS

アクアリウムさがみはら情報誌
Vol.08



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

「見えないもの」

相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら
館長 坂野 浩一



2021年も新型コロナウイルス感染拡大は収束せず、当館も8月6日から9月30日まで臨時休館を余儀なくされました。しかしながら、コロナ禍にも関わらず、多くのお客様にご来館いただき、10月以降は連続して過去最多入館者数となりました。1月に2つの新規展示を開始し、3月には「ホームページ」を刷新し、10月には売店で「オリジナル商品」販売を開始するなど、水族館として新たなチャレンジを続けていることが、多くのお客様のご来館に繋がっていると感じています。

依然として、“見えないウイルス”に対応しながら暮らす中で多くの人が、これまで当たり前と思っていた日常生活の大切さを痛感され、暮らしの中の“ささやかな幸せ”を一層大切に思われるようになっているのかもしれない。
また、MLB大谷選手の活躍、東京オリンピックや北京オリンピックでは選手が挑戦している姿に清々しい感動を受けた方も多かったと思います。“勝ち負けを超えたように楽しんでチャレンジしている姿”に、その仲間たちも私たちが称賛し感動を覚えたのも記憶に新しいことでしょう。
2022年2月にはウクライナにロシアが侵攻するという出来事があり、世界中の人々が心を痛めています。
“先の見えない時代”だからこそ、日常を大切に過ごす中で幸せを感じ、未来に向かって楽しくチャレンジしていくことが大事なことでないでしょうか。

2022年も私どもは、ご来館の皆様が笑顔になれるように、日々の仕事に誇りを持ち、新たなチャレンジを続けていきます。

Contents

はじめに	2
“The Aquarium Future”みんなと輝く未来へ	3
オオサンショウウオの返却と新規個体の導入について	4
他団体・他機関との連携	5
新規展示	6
地域連携	8
特別企画展	
◇アマゾン探検隊	10
◇みんなのウーパールーパー展	12
マンスリー水槽	14
ミニトク水槽	15
オリジナル商品	15
水辺の生き物水槽	16
常設トビックス	16
海の生き物水槽	17
小川の実験観察テーブル	17
ふれあい田んぼ探検隊	18
ものづくりワークショップ	19



“The Aquarium Future” みんなと輝く未来へ

昨年来続いている新型コロナウイルスの猛威に、本来「人と人とが触れあう大切な機会」であるイベントが、日本のみならず世界中で延期また中止になって2年になります。
当館の運営でも厳しい状況ではありますが、コロナ禍においては「水上散歩水槽」、「水生昆虫水槽」、「川原の石みてみよう！」などの新たな水槽の展示に続き、21年度では「カニの木登り水槽」を新設、坂道お魚観察水槽を発展(拡張)させる発想で、空間を活用した展示を開始しました。その他「ぶちナマズ」「黄金のカエル」など期間限定のトビックス水槽の特別展示、さらには「オオサンショウウオの入替え」など実施しました。
企画やイベントでは、バックヤードツアーの実施、ものづくりワークショップの開催時間の拡大、地元園児との稚鮎放流や公園内での花の苗植え、「ふれあい田んぼ探検隊」など一般の市民の皆様を対象とした屋外の行事などにも積極的に取り組んで参りました。解説イベント含めこれらのイベントでは、特に新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしっかりとっての運営に徹しました。
また、公式ホームページの大幅リニューアルをいたしました。新しい展示や企画、新着情報の発信のほか、SNSを通して当館の活動を定期的にお客様にお届けすることにも取り組み、おかげさまでフォロワー数も順調に伸びております。
これらの活動は、当社の社是である「勇気と挑戦(チャレンジ)」を基本理念としたものですが、同時に当館の施設名にもある「ふれあい」を基軸に、ご来館いただくお客様にとって「また来たくなる水族館」づくりに注力したものでもあります。これからも社員一同、水族館の輝く未来に向かって邁進して参ります。



【施設概要】	
施設名	相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら
特色	相模川の生き物や自然をテーマとした水族館
指定管理者	株式会社江ノ島マリンコーポレーション 新江ノ島水族館(神奈川県)、世界淡水魚園水族館(岐阜県) 運営
所在地	神奈川県相模原市中央区水郷田名 1-5-1
敷地面積	15,722㎡
総飼育水量	約100t

展示トピックス オオサンショウウオの 返却と新規個体の 導入について

波多野 順



「ありがとう！そしてようこそ！」



これまで展示していたオオサンショウウオ



新規導入オオサンショウウオ

オオサンショウウオは当館でも人気のある生き物のひとつです。本来、オオサンショウウオは岐阜県以西に生息する日本固有種で、関東地方には生息していませんが、縁あって当館では昭和62年より展示を続けています。その大きさとゆったりとした動きはまさに川にすむ主といったところです。来館者の方々はその大きさに驚き、日本の川の素晴らしさを感じて頂けていると思います。

2016年より展示していたオオサンショウウオは、岐阜県の世界淡水魚園水族館の個体を借用していたもので、その借用期限が2021年度までとなっていました。そのため、新規個体の導入準備を続けていました。そして、広島市安佐動物公園から繁殖個体を分譲して頂けることになり、2021年の11月に個体を入れ替えることになりました。

11月24日の朝に展示していたオオサンショウウオを取り上げ、車に積んだタンクに入れて、大切に世界淡水魚園水族館まで運び、無事に返却をすることが出来ました。当館で展示・飼育を続けて、無事にお返しすることが出来て、安堵しました。当館に来てから5年間、本当にありがとう！そしてそのまま車を走らせて広島まで、ロングドライブ。

翌11月25日に安佐動物公園で、1個体を頂き、再び車に積んだタンクに入れて、一路相模原へ。ここからが大変で、オオサンショウウオは高水温には弱いため、低水温を維持



他団体・他機関との連携

ミニ企画展示「もっと知りたい相模の自然」 亀ヶ谷 千尋

5年目を迎えたミニ企画展示では、知っているようで意外と知らない身近な自然についてみなさんに興味を持ってもらえたらと考えながら、テーマとなる生き物を選びました。

突然ですが問題です。①鼻の穴がない鳥ってなんでしょう？②背中にタコ焼き器のような穴のある虫は？この不思議な生き物たちは私たちのすぐそばにいます。①は魚とりの名人、カワウです。泳ぎに特化した体のつくりのひとつとして、成長すると鼻の穴がふさがります。

②は、最近問題になっている“ナラ枯れ”の原因菌を運ぶポケットを持つ、カシノナガキクイムシです。

これらの展示を、調査や研究・保全に携わる外部機関の方々のご協力を頂きながら作るにあたり、私自身知らなかったことや面白いと思ったことがたくさんありました。これからも、身近にある面白いことや不思議なことを、わかりやすく、楽しく皆さんに伝えていけたらと思います。ご協力を頂きました皆さまには、この場をお借りして御礼申し上げます。

第15回 企画 魚とり名人、カワウ

共同機関：相模原市立博物館

期 間：2021/6/1～11/7

概要 相模川のほとりを歩いていると、カワウが中州や川岸で羽を広げて乾かしている様子をよく見ることができます。カワウは魚をとるのがとても上手で、以前は鵜飼い漁に用いられていたこともあります。相模原市立博物館からお借りしたカワウの剥製を間近で観察できるよう展示し、泳ぎに特化した特徴や、近年私たち人間との間に起きている問題などをご紹介します。



第16回 企画 秋のみのり ～ドングリ～

共同機関：津久井湖城山公園

期 間：2021/11/9～

概要 “ドングリ”とはブナ科の果実を指し、私たち日本人にとっても馴染み深い木の実です。帽子のような殻斗を持つことが特徴で、殻斗の特徴から種類を見分けることができます。県立津久井湖城山公園に自生するクヌギ、コナラ、アラカシなどを中心としたドングリの木について、押し葉標本などを用いて解説し、併せて近年問題となっている、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌による「ナラ枯れ」も紹介しました。



調 査 ・ 研 究

調 査 相模川ふれあい科学館では、他機関との連携や調査・研究を通して、自然環境の把握や生態解明、普及啓発にも取り組んでいます。

小田原市メダカ生息調査 2021.9/7・2022.1/27
(小田原市・酒匂川水系のメダカと生息地を守る会協力)

ホトケドジョウ生息調査 2021.4/25・12/18
(生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会)

ミヤコタナゴの保護育成にともなう個体数調査
2021.10/22

研 究 **日本水族館協会 第2回水族館研究会(オンライン発表)**
2022.3/15

発表演題：「魚を上から見る水上散歩水槽の紹介」
発 表 者：○波多野 順・竹本 淳史・宮咲 礼一

監修書籍 **がっけんのかぐえほん 「かわをのぼろう」**

監 修：波多野 順
発 行：株式会社学研教育みらい



メダカ生息調査



ホトケドジョウ生息調査

新 規 展 示

波多野 順

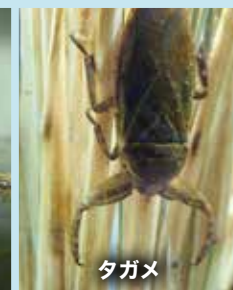


相模原市では、2020年度に指定管理者制度導入施設において、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた施設の活性化による周辺地域の賑わいを創出することを目的として、新規事業の援助が実施されました。当館ではこちらの募集に応募し、新規展示および施設の充実を提案し、3つの新規事業として、①水田や水路に生息する水生昆虫水槽の新設、②水辺の鳥を用いたいき物ガイド、③川原の石についての展示・イベントが認定されました。準備期間としては、2020年11月から1月までと短かったのですが、展示を拡充し、地域の活力となるよう準備を進めました。2021年1月中の展示開始を目指していましたが、実際には緊急事態宣言発令のため2021年1月13日から3月22日まで臨時休館となり、完成後もしばらくはお披露目することは出来ませんでした。しかし、臨時休館明けには、多くのお客様をお迎えすることができ、新しい展示もご覧頂くことができ、ようやく当館の展示の一つとして稼働し始めました。またこの事業とは別に、飼育員が野外で観察したカニの行動を引き出す「行動展示」として「カニの木登り水槽」を考案しました。既存の展示を利用した飼育員のアイデアと熱意が作り上げた水槽で、こちらは8月6日から9月30日までという繁忙期であるはずの夏休み期間が臨時休館となり、その間に準備を進め、営業再開後の10月1日より展示を開始しました。それぞれの展示が、当館も世の中も苦しい時、新たに挑戦させて頂き作り上げた展示として印象深いものがあります。だからこそ末永く喜ばれる展示であって欲しいと願っています。

水生昆虫水槽

山田 一輝

2021年度、当館の「人ゾーン」に新たな常設展示として「水生昆虫水槽」をお披露目しました。水生昆虫水槽のテーマは、田んぼと用水路にすむ水生昆虫（水辺でくらす昆虫）たちです。水生昆虫の仲間はとても多様で、一生のほとんどを水辺で暮らす真水生の種に限っても、日本に約480種見つかっています。ゲンゴロウやタガメなどの名前は聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか。水生昆虫は自然界において、魚類の餌となるものもいれば、逆に魚類を捕食するものまで、水辺の生態系の中でもとても重要な役割を担っています。当館では、今まで「水辺の生き物水槽」にて水生昆虫を2種ほど常設展示しておりましたが、魚に負けないほど多様でユニークな水生昆虫の魅力をもっと多くの方に知って頂きたい！そして水生昆虫たちは今どんな状況に置かれているのかを伝えたい！そういう思いから常に5種の水生昆虫を展示する新規常設展示「水生昆虫水槽」を立ち上げました。



展示には、隠れてしまいがちな水生昆虫たちがよく見えるように、水槽の奥行きを狭くするなどの工夫がしてあります。上部には、田んぼの畦や用水路をイメージした植栽があり、水槽内の水草などと合わせ水槽全体で水生昆虫がすむ田んぼや湿地を再現しています。その効果もあってか、繁殖期の夏ごろはゲンゴロウやガムシ、タガメの水槽内での産卵を見ることができました。近年、水生昆虫は生息環境の悪化・消失などで全国的に数を減らしており、神奈川県も例外ではありません。展示している種の中には、神奈川県では絶滅してしまった種もいます。かつて身近だったゲンゴロウやタガメが、図鑑の中だけの生物になってしまわないよう、展示を通してどんなところにすんでいるのか、どんな動きをするのかなど、魅力や現状を知って頂ければ嬉しく思います。なにより、ここから水生昆虫が好きになって頂けたなら最高ですね！

展示した種：ゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、ガムシ、タガメ、タイコウチ、ミズカマキリ

水辺の鳥ガイド

亀ヶ谷 千尋

2021年度、リニューアルしてから相模川ふれあい科学館“初”となる出来事がありました。特別企画展以外で初めて鳥類の飼育が始まったのです！その鳥は“トビ”です。川がつくり出す水辺の環境は、実に多様な生き物を育てています。トビも水辺でよく見ることが出来る鳥です。私たちの最も身近にいる猛禽類ではありますが、間近で見る機会は意外と少ないと思います。実は、このトビは飛べません。2017年に翼にケガをして弱っていたところを保護されました。厚木市にある神奈川県自然環境保全センターで治療を受けたのですが、ケガの後遺症で飛ぶことができず、自然にかえすことができませんでした。そこで、水辺で見る事ができる、知っているようで意外と知らないトビについて、皆さんに知っていただくお手伝いをしてもらおうと、相模川ふれあい科学館にやってきました。しかし、野生の生き物にとって人間は怖い存在です。まずは人の存在に慣れてもらうことからトレーニングを始め、なんとか腕に乗るまでになりました。そして、ケージの

網越しにはなりますが、この度ガイドデビューをすることができました！期間限定で行われたバックヤードツアーの中で、参加者の皆さんに間近で観察して頂き、少しでもふれあい体験も実施しました。まだまだ大勢を前にするとびくびくして逃げてしまいますが、今後もトレーニングを続け、館内でのガイドデビューを目指していきたいと思います。



川原の石 みてみよう！ 波多野 順



川を構成する要素として水や生き物以外にも大切なものがあります、そう石なのです。川原には様々な種類や形の石が点在しており、石を見ることによってその川の成り立ちが分かります。また古くから人々は石を生活の道具や建築材としても用いてきた歴史があり、かつては身近に存在していました。相模川では、上流部に位置する関東山地から、砂や礫が固まってできた「砂岩」や「礫岩」、泥岩や砂岩がマグマの熱により別の岩石に生まれ変わった「ホルンフェルス」、さらにマグマが地下深くで固まった「閃緑岩」が運ばれてきます。また丹沢山地からは火山灰や火山礫が固まってできた「凝灰岩」や、マグマが冷えて固まった「安山岩」や「閃緑岩」が運ばれてきます。そして源流部からは、富士山のマグマが冷えて固まった「玄武岩」が運び出されてきます。これらの石が、川の水によって削り出され、しだいに小さく丸くなって川原に積もっているのです。そこで実際に川で採集した石を展示し、地質学的・歴史的にも相模川に興味を持って頂くことを目的に、新規展示を作製しました。今回の展示に際しては、相模原市立博物館学芸員の河尻さま、旧石器時代学習館学習指導員の金子さまにご協力を頂き、監修やアドバイスを頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

カニの木登り水槽

竹本 淳史

あれはまだ梅雨の明けきらない初夏の日暮れあとのこと、私は相模川の河口でヘッドライトの灯りを頼りにフィールドを歩いていました。舗装されていない砂利道に所々小さな水たまりが出来ていて、そこにアカテガニが何匹も集まっていた。こちらが手出ししないと向こうもそれほど気にしていないようで、しばらく観察していました。そのとき、ふと上の方から何かの気配を感じて見上げてみると、手をのばしても全く届かないような高い木の幹をアカテガニが歩いていたのです。図鑑で木に登ることがあるとは知っていましたが、実際に見るととても新鮮な驚きがあり、周りの木も探してみると何匹もアカテガニが木に登っている姿が観察できました。水族館は“いきもの”を見られる場所ですが、自然界での行動を水槽の中で再現できる場所でもあります。カニが木に登るという一場面を切り取ったこの水槽が出来るまでには、ああでもないこうでもないという試行錯誤もありましたが、「カニって木に登るんだ～」と生き物の面白さを少しでも共有できたとしたら、これほど嬉しいことはありません。



地域連携

近隣の幼稚園・保育園・学校との取り組み

田んぼ体験・稚鮎放流

(田名幼稚園・友愛保育園・桑の実保育園)

近隣の田名幼稚園・友愛保育園・桑の実保育園の園児たちと一緒に、5月には相模川にて稚鮎の放流会を、6月にはふれあい田んぼにて田植えを行いました。10月には稲刈り・脱穀・風選を行い、育てたお米を収穫しました。本年度も子供たちの命に触れる体験や農業体験を通して、自然に親しみ豊かな心の醸成に努めました。



花苗植え

(友愛保育園)

当館では友愛保育園の園児たちと一緒に、相模原市まち・みどり公社が行っている花のまちづくり・みどりいっぱい運動に参加しています。

春(6月)にはサルビアとニチニチソウ、秋(11月)にはパンジーとピオラを季節の花苗を専用の花壇に植えました。今回も色とりどりの花をみんなで植えて、綺麗な花壇ができあがりました!

園児たちとみんなで作った花壇も見に来てくださいね。



「総合的な学習の時間」

田名北小学校 3年生

本年度は、相模原市立田名北小学校の3年生と1年間を通して、総合的な学習の時間に「地域を学ぼう～相模川ふれあい科学館ONE TEAMプロジェクト～」として、地域の自然や生き物について学びを深めていく共同学習プログラムを実施しました。

学校での授業や、生き物の説明などを通して学習意欲を高めるため出張事業を行い、10月には実際に相模川での生き物採集と観察会を、また川と海の繋がりを学ぶため新江ノ島水族館の見学も実施されました。観察会では、生き物を学校に持ち帰り、生物の同定や飼育に挑戦し、新たな経験と探求する力を学ぶことが出来たと思います。

実際に生き物に接することで、生徒たちの熱意が格段に変わったのを感じました。学びはいつでもどこにでも存在することを再認識し、気持ちが向くことで一気に知識を吸収していく子供たちの姿は、本当に逞しくもありました。

本年度もコロナ禍で思うような活動が出来ず、その中でも担任の遠田先生・大廣先生の熱意がこの学習を支えていたのが印象的でした。このような素晴らしい環境と先生の中で、学びを深めることの出来る生徒たちは大きく成長し、生き物に対しても人に対しても優しい気持ちをもった大人へと変わってくれると信じています。



特別企画展 アマゾン 探検隊

～いざ、南米の秘境探検に～

オニオオハシ

地球最後の秘境“アマゾン” そこにすむ様々な生き物たち

南米大陸には、アマゾン川流域を中心として複数の国にまたがり、アマゾン熱帯雨林が広がっています。世界で最も生物多様性に富んだ地域で、“地球最後の秘境”と呼ばれることもあります。今回の企画展では、アマゾンの大自然の中で、多種多様な生き物たちがどのような場所で、こういった暮らしをしているかをご紹介します。



グリーンイグアナ

ピラニアナッテリー



企画者
コメント
Comment

展示飼育部
西田 征晃

「アマゾン展」ではなく「アマゾン探検隊」このタイトルにしたのには理由があります。会場内をただ見て回るだけではなく、自らがアマゾンの熱帯雨林を探検しているかのような気持ちになって欲しかったからです。簡単には言いますが、そのための雰囲気づくりに苦労しました。会場内の装飾は森、川、水辺に分けた各ブースで、細部までこだわりました。ここまで装飾に時間をかけたのも久しぶりだなと思ったくらい。続いて、展示する生き物を選んでいると、哺乳類はあれ、鳥はあれ、魚はあれ、虫はあれ、カエルはあれ紹介したい種が多すぎて決まりません…選びすぎて展示種がかなり多くなりました！そのためか、今回の企画展は我ながらボリューム満点だったと思います。今回ご紹介できなかった生き物もまだまだいます。そして、来館者の方からも「またやってください！」とお声をかけていただくことが何度かあったので、いつかまたアマゾン探検隊第二弾、できればいいなと思っています。



トリアンパナクエ



アマゾンツノガエル



デンキウナギ



アカハナグマ



テトラの仲間



アマゾンツリーボア



エンゼルフィッシュ



サウスアメリカンピンクトゥ



ポルカドットスティングレイ



レビシレン・パラドクス



カピバラ

特別企画展

みんなの ウーパールーパー展

～メキシコうまれの
ふしぎないきもの～

ミューテーション ブリンドル

うぱっ

いつの時代も愛される “ウーパールーパー” その魅力に迫る！

ウーパールーパーは1980年代に一大ブームを巻き起こした生き物で、図鑑ではメキシコサラマンダーと呼ばれています。その名の通りメキシコ原産の両生類で、成体になっても幼生の特徴を残す幼形成熟する生き物です。みんなのウーパールーパーでは生態の解説に始まり、様々な色の品種を紹介しながら、通常では見られない変態し上陸した個体も展示しました。また、生息地のソチミルコ湖で数を激減させている現状や、現地での保護の様子も取り上げました。幼形成熟するその他の両生類を紹介するコーナーでは、碧南海浜水族館のご協力のもと貴重なホライモリの標本展示を行うことが出来ました。この場を借りて御礼申し上げます。



ブラック



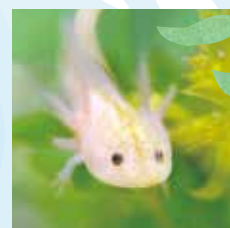
幼生



ウーパールーパーの卵



上陸個体



マーブル



ミューテーション ダルメシアン



ゴールドデン

展示飼育部 竹本 淳史

ウ、ウーパールーパーですか？

忘れもしない2020年1月27日、私は岐阜県の世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふのベテラン飼育員T氏と雑談をしていました。T氏「次のアクア・トトの企画展はウーパールーパーやねん」

私「え？ウ、ウーパールーパーですか！？」

T氏「え？なんなん？もしかしてウーパールーパーバカにしてるやろー」

私「いや、でも、ウーパールーパー…ですよね？」

上のやり取りからしばらく経ち、世界淡水魚園水族館で行われたウーパールーパーの企画展を見た私は、その生態の面白さや奥深さ、本来の生息地での絶滅の危機に瀕している状況などを知ったときT氏の発言が頭の中でリフレインするのでした。

今ならわかります、あの時の私は無知だったと。

…すみませんでした。

というわけで、この魅力あふれるウーパールーパーについてもっと多くの人に知ってもらいたいと思い、相模川ふれあい科学館の考え方で味付けして作り上げたのが「みんなのウーパールーパー展」なのです。



グレーターサイレン



アルビノ



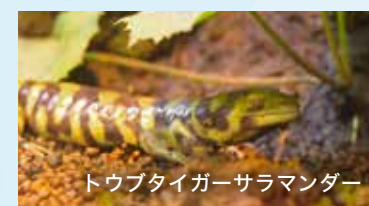
ヒメヌマサイレン



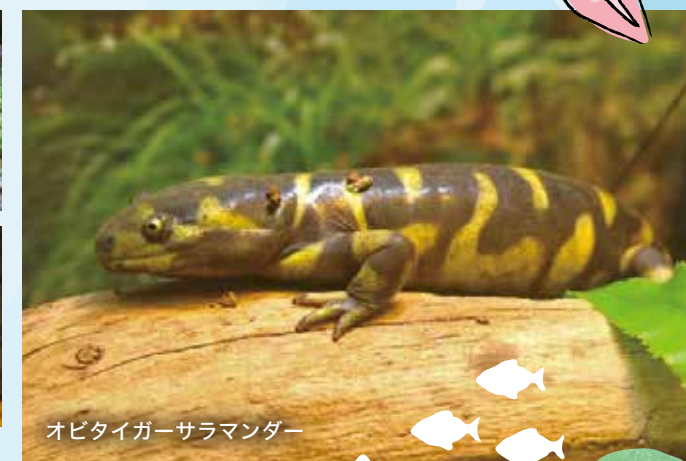
スポットサラマンダー



ホライモリ(標本)



トウタイガーサラマンダー



オビタイガーサラマンダー

マンスリー水槽

1月 新年の始まり



マダイ
新年の始まりにあわせて、おせち料理など祝いの席で見ることの多いマダイを展示しました。レイアウトには、食卓に並ぶおせち料理を模したものを入れました。

2月



臨時休館のためお休み

3月



4月 桜満開の季節



ケラマハナダイ
桜の開花の時期にあわせて、桜の花のように体色がピンクのケラマハナダイを展示しました。まるで桜の花びらが舞い散る様に、泳ぐ姿が観察できました。

5月 ツバメがきた！



ヒメツバメウオ
空を駆けるツバメの姿をよく見かける5月。ツバメを名前にもつヒメツバメウオをご紹介します。ヒレを立ててスイスイ泳ぐ姿は、まるでツバメが空を飛んでいるよう。黄色いヒレも特徴的です。

6月 ハナハゼの“ハナ”はなんの花？



ハナハゼ
梅雨の時期にはアジサイが見頃を迎えますが、ハナハゼという魚の“ハナ”の由来について解説しました。きれいに咲く花ではなく、人物の花子さんからつけられています。

7月 夏の天の川



ゴールデンテトラ
夏の天の川のように銀色に輝くゴールデンテトラの群れ。この銀色は、体の表面に付着したバクテリアが光を反射していると考えられています。

8月 夏の色、夏の音



金魚(更紗琉金、江戸錦、クロデメキン)
夏の暑さを乗り切るために、日本では金魚の色で涼み、風鈴の音で涼むなどの工夫をしてきました。そこで、金魚鉢の中で泳ぐ金魚たちを、風でゆれる風鈴と共に展示しました。

9月



臨時休館のためお休み

10月 ハロウィンの宴



レッドファントムテトラ、ブラックファントムテトラ
ハロウィンのキャラクターで見ることの多い幽霊に因んで、名前に幽霊という意味の「ファントム」が付いているテトラの仲間を展示しました。

11月 芸術のような魚たち



マンジュウイシモチ、フォックスフェイス、オトメベラ
芸術的な色合いや模様の魚たちがたくさんいます。生き物たちの体色には、保護色や警戒色、婚姻色など色々な役割があります。

12月 ホワイトクリスマス



シルバーモーリー
雪が降り積もるクリスマスの日をイメージして、白いクリスマスツリーとともに体色の白いシルバーモーリーを、雪に見立てて展示しました。

ミニトーク水槽

口から水鉄砲!?
テッポウウオ

生物種：テッポウウオ

期間：2021.4/1 ~ 8/5



テッポウウオは口から水をとばして、水面上にいる虫などを打ち落とすことができます。水を遠くまで飛ばすことができる秘密は口の中にあります。実際にテッポウウオが水を飛ばす様子を観察しながら、その仕組みを解説しました。

水が苦手!?
ミナミトビハゼ

生物種：ミナミトビハゼ

期間：2021.10/1 ~ 11/13

ミナミトビハゼは、水の外に出て活動することができます。鰓で呼吸する魚は水の外では呼吸ができませんが、トビハゼの仲間は特殊な皮膚を使って呼吸することができます。実際に水の外に出ている様子を観察しながら、陸上での活動に適した体のつくりについて解説しました。



発電する魚!
デンキウナギ

生物種：デンキウナギ

期間：2021.11/14 ~



デンキウナギは生き物の中で一番強い電気を出すことができる魚で、その最大瞬間電圧は800ボルト近くにもなります。実験では、デンキウナギが餌を捕まえるために電気を出す様子を観察し、その生態を分かりやすく解説しました。

オリジナル商品



ここにしかないもの!?
オリジナルグッズ新登場!

商品名 相模川のいきものリフレクター
オリジナルマスキングテープ
もちもちキーホルダー

私たちは普段、どうしてももっと生き物に興味を持ってもらえるか、もっと魅力的な水族館になるかを考えながら展示水槽を作ったり、特別企画展を企画したりしています。そして今回、魅力的な水族館づくりのひとつとしてオリジナルグッズを作りました! 日々生き物たちに接していると、「この生き物のここがたまらないっ!」というような推しポイントが見えてきます。ホトケドジョウのつぶらな丸い目、アカハライモリの脱力した姿勢、小さなカヤネズミの小さく握られた手。そんな生き物たちの魅力が皆さんにも伝わるよう、気持ちを込めてデザインしました。今後も機会があれば、新たなオリジナルグッズを作っていきたいと思います!



水辺の生き物

生物種：カヤネズミ、ニホンイシガメ、
ヒガシニホントカゲ、ツチガエル

水辺の生き物水槽ではこれまで水生昆虫も展示していましたが、新たに水生昆虫水槽が出来たことで展示の見直しを行いました。そのなかで、課題のひとつに「カヤネズミを見やすく展示すること」がありました。イネ科の植物が生える河原に暮らすカヤネズミは基本的に夜行性のため、これまでの展示ではほとんどの時間オギやススキで編んだ巣の中で休んでいました。そこで照明などを工夫してカヤネズミの生活リズムの昼夜を逆転し、日中でも活動する様子が観察できるようにしました。赤いフィルターで水槽を囲んでいるため赤く見えてしまいましたが、動き回ったりエサを食べたりする様子をご覧いただけるようになりました。



カヤネズミ



ヒガシニホントカゲ



ニホンイシガメ



ツチガエル



ぶちなmaz

こんなナマズみたことある？ぶちなmazあらわる！

期間：2021.4/19～5/30

場所：エントランス 特設水槽

展示したナマズは相模川で採集されたもので、2021年1月に当館に寄贈されました。この個体は一般的なナマズが黒っぽい体の色をしているのに対して、体の上側が黄色で下側が黒色をしているのが特徴です。魚の体の色は色素胞という細胞の働きで決まりますが、色変わり個体は何らかの理由でメラニン色素を含む黒色の色素胞の働きが正常に機能せずに、このような体色になったと考えられます。



バックヤードツアー

水族館の裏側は・

期間：2021.5/15・29・6/5・19・26

水族館の裏側ってどうなっているんだろう？実は、皆さんが普段見ている展示スペース以外にも水槽はたくさんあります。また、水族館の裏側には展示水槽を支える機器類もあります。そんな、普段は見ることのない裏側を、皆さんに見て頂くとともに、その役割などを解説しました。相模川ふれあい科学館の裏側はそんなに広くないのですが、解説する飼育員も熱が入り、ツアーは1時間を超えることも…！?また機会をみて実施したいと思います。



アルビノのカエル

金色のカエル



期間：2021.8/1～10/31

場所：生命ゾーン 水辺の生き物水槽隣

生物：ヤマアカガエルのアルビノ個体

ニホンアマガエルのアルビノ個体

通常、日本のカエルではその多くが、緑色や茶色の体色をしています。それは皮膚にある色素細胞(色素胞)に由来しています。しかし稀に、白色や青色など体色の変化した個体が見つかることがあります。今回は、厚木市で発見されたアルビノのヤマアカガエルと、愛川町で発見されたアルビノのニホンアマガエルの2種類を同時に展示しました。このアルビノのカエルは、黒色素胞に含まれるメラニン色素が無いため、白色や金色に見えると考えられます。また、このような現象は、突然変異や遺伝性遺伝によるものと考えられています。



海の生き物水槽

海中の草原

生物種：ヨウジウオ、アミメハギ、クロウミウマ、
クサフグ、リュウキュウスガモ



海草藻場の働きや現状についてご紹介しました。あわせて、その環境にすむ生き物を4種展示しました。
期間：2021.3/9～5/30

へビなの？魚なの？

生物種：シマウミヘビ

海にすむ魚類のウミヘビと、爬虫類のウミヘビについて体や生活方法の違いをご紹介しました。水槽では、魚類のシマウミヘビを展示しました。
期間：2021.9/15～2022.1/16



いろんな形のヒトデ

生物種：コブヒトデ、イトマキヒトデ、
マンジュウヒトデ



星形や丸形など、様々な形のヒトデを展示して、代表的なヒトデの体のつくりについてご紹介しました。管足などを間近で観察することができました。
期間：2021.6/1～9/12

小川の実験観察テーブル

モズクじゃないよ！ モクズだよ

生物種：モクズガニ(オス、メス)

カニの仲間であるモクズガニの雌雄の見分け方を中心に、体のつくりや生活史についてご紹介しました。
期間：2021.3/23～5/23



カワムツ？ヌマムツ？どっち？

生物種：カワムツ、ヌマムツ

見た目がそっくりなカワムツとヌマムツの見分け方を解説して、隣り合う2つの水槽で泳ぐ両種を見比べられるような展示にしました。
期間：2021.5/25～9/12



流れてる？止まっている？ ー水の流れと生き物たちー

生物種：ボウズハゼ、ヒガシシマドジョウ、
ミズカマキリ、アメリカザリガニ

河川における流水域と止水域、それぞれにすむ生き物をご紹介しました。魚類だけではなく、水生昆虫や甲殻類も間近で観察していただきました。
期間：2021.10/1～
2022.1/3





田植え



稲刈り

ふれあい 田んぼ探検隊

展示飼育部 西田 征晃

今年度のふれあい田んぼ探検隊は、昨年度に続いて感染症による影響を大きく受けました。年間5回あるイベントのうち、8月に実施予定であった「観察会」が中止となってしまいました。しかし、それ以外の田植えや稲刈りなどのイベントは、無事参加者の皆さんと実施することができました。

田植えを終えてから約5ヶ月、順調に育った稲からたくさんのお米が収穫できました。最後は毎年恒例の収穫祭で、皆さんと一緒においにぎりを作っておいしくいただきました。来年度は観察会も実施できることを願うばかりです。

脱穀



風選



収穫祭



ものづくり ワークショップ

営業・管理部 熊田 奈津子

2014年から始まったものづくりワークショップも8年目を迎えました。2021年は2回の臨時休館となりましたが、営業再開後は非常に多くのお客様にご参加いただきました。お客さまからの声で、担当者としてもさまざまな発見や気づきをいただくことがあります。皆様から喜びのお声や笑顔が励みとなった1年でした。ものづくりワークショップは小さなお子様から大人の方までどなたでもご参加いただけます。ご来館の際は、是非多目的室2へ遊びに来てくださいね！

年間スケジュール(有料・無料)
2021年1月～12月(凧作り～スノードームまで)
※1月13日～3月21日、8月6日～9月30日臨時休館のため実施せず

ものづくりワークショップ一覧(2021年1月～12月)

空を泳げ！いきもの凧づくり	1月1日(金)～1月11日(月)の土日祝日 (冬休み期間 1月1日～1月5日は毎日開催)	有料
ぶくぶくバスボム	3月22日(月)～4月11日(日)の土日 (春休み期間 3月22日～4月3日は毎日開催)	有料
すいすいのぼり	4月5日(月)～5月28日(金)の平日	無料
いきものすたんぷポーチ	4月17日(土)～5月23日(日)の土日祝日	有料
おさかなモビール	6月1日(火)～7月21日(水)の平日	無料
こるくマグネット	5月29日(土)～7月11日(日)の土日	有料
ふるふる★みずたま水族館	7月17日(土)～10月3日(日) (夏休み期間 7月22日～8月5日は毎日開催)	有料
いきものクライマー	10月1日(金)～11月30日(火)の平日	無料
水辺のキーホルダー 相模川のなかまたち	10月9日(土)～11月14日(日)の土日祝日	有料
スノードーム水族館	11月20日(土)～12月19日(日)の土日祝日	有料
いきものオーナメント	12月1日(水)～12月24日(金)の平日	無料



写真家の伊藤さんが撮影した、相模川にくらす様々な生き物の写真を展示しています。その季節ならではの生き物のあんな姿こんな姿が見られるかも…？

相模川のともだち一覧(2021年1月～12月)

1月 トビ	7月 カナブン
2月 臨時休館のため展示なし	8月 アカダラカゲロウ
3月 ヒヨドリ	9月 ヨツモンカメコノハムシ
4月 キムネクマバチ	10月 コゲラ
5月 カミムラカワゲラ	11月 トビ
6月 オオカマキリ	12月 ヨモギハムシ

■アクセス Access



**電車
バス
ご利用** JR横浜線 相模原駅南口より
神奈川中央交通バス「ふれあい科学館前」バス停下車すぐ

**車を
ご利用** 国道16号線 相模原駅入口 県道503号 上溝 県道54号 相模川ふれあい科学館
圏央道 相模原愛川IC 国道129号 上溝バイパス 県道54号

■入館料金（税込）

区 分	個 人	年間パスポート	団体 (20名以上)
大人 (高校生以上)	450円	1,350円	360円
小人 (小・中学生)	150円	450円	120円
シニア (65歳以上)	220円	660円	170円
幼児 (小学校就学前) 障がい者と同伴者1名※ ひとり親家族等※	無料		

※については、入館時に証明できる各種証明書（またはその写し）のご提示が必要です。

お得な年間パスポート

年間パスポートは当日券3回分の料金です。
ワークショップの割引もあります。



■開館時間 9:30 ~ 16:30

イベント開催等により営業時間変更の場合あり

■休 館 日

月曜日（月曜日が祝日等の場合は開館）
ただし、春休み・夏休み等の長期休暇期間は毎日開館



運営会社のご紹介

2014年1月より、相模原市から指定管理業務を受諾させていただいております株式会社江ノ島マリンコーポレーションは、下記水族館の運営業務も行っております。



相模湾に面し、右手に富士山、左手に景勝地・江の島が控える絶好のロケーションに立地する「新江ノ島水族館」は、“わくわくドキドキ冒険水族館”をコンセプトにしています。



日本や世界の淡水域に生息する生物を紹介している「世界淡水魚園水族館 アクア・トトギス」は、岐阜県によって整備され環境学習体験を实践する場として親しまれています。



〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
TEL.042-762-2110 FAX.042-761-2665
<https://sagamigawa-fureai.com/>

相模川ふれあい科学館 検索

【指定管理者】株式会社江ノ島マリンコーポレーション 【第一種動物取扱業の実施に係る掲示】氏名又は名称：相模原市 事業所の名称：相模原市立相模川ふれあい科学館 事業所の所在地：神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1 動物取扱業の種別：展示 動物取扱業の登録番号：生衛 第204-00012号 登録年月日：2014年3月10日 登録の有効期限の末日：2024年3月9日 動物取扱責任者の氏名：竹本 淳史

